

公益社団法人 地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

幹事長の就任のご挨拶

関東支部幹事 杉山 太宏
東海大学工学部土木工学科

2019年4月の総会におきまして、地盤工学会関東支部幹事長に就任致しました杉山^{もとひろ}太宏（東海大学土木工学科）です。関東支部の更なる発展のために微力ではございますが精進致しますので、ご指導・ご支援の程よろしくお願ひ申し上げます。

幹事長3年間の任期は長いぞ、と感じながらお引き受け致しました重責を担う仕事ですが、あっという間に1年が過ぎようとしており、果たしてこの1年、幹事長として何をしてきたのだろうと本レターをしたためながら振り返っております。支部の現状と幹事長の職責についてようやく理解が進んだところでの第54回地盤工学研究発表会（さいたま市開催）の実施、10月の台風19号による関東地方の地盤被害調査団結成への対応、年が明け2月以降は新型コロナウイルス対策として委員会や講習会の延期や中止措置など、今年度は支部の年中行事以外への対応が少なくなく、新型コロナウイルスへの対応は現在進行形です。今後の学会活動に更なる影響が生じる可能性もありますが、真摯に向き合っていきたいと思ひます。



さて、幹事長就任にあたりましては、関東支部の歴史をあらためて振り返るべく支部ホームページの資料集（<http://jibankantou.jp/shiryou.html>）や、伝統あるニューズレターの巻頭言を全て読み返しました。歴代の支部長、副支部長、幹事長他の皆様が関東支部の活動に対する決意、危機感、期待などの「熱い思い」をそれぞれに述べておられます。それらの「熱い思い」は、その時どきの支部長による強力なリーダーシップのもと幹事や委員、会員の皆様に協働をお願いしながら活発な活動が展開されたことにより結実して、関東支部の活動は手探りの活動期を過ぎ、設立から15年の時を経て今は安定した活動期にある状態、と私は勝手に結論づけています。もちろん、会員の減少や支部財政逼迫の問題など抜本的な対策の難しい問題もございりますが、支部活動の多くは定例行事となって会員のみならず非会員の

方々にも一部は認知され、一定数の参加者が見込めるようになっていきます。このように地道ながらも継続的に粘り強く実施してきた活動の展開により安定した活動期（あくまでも私見ですが）にある関東支部ではありますが、現状に満足することなく、地の利と規模を大きな武器として、本部や他支部との良好な関係の構築はもとより、他の支部の手本となるような支部運営、活動の推進が責務であると考えます。

ところで、世の中は評価の時代であり、PDCA をいかに回すかが産官学を問わず求められています。支部活動のPDCA を回すためには、会員の皆様からのご提案やご意見を頂くことが必要不可欠です。会員の皆様におかれましては、「関東支部の会員であること」を今一度ご認識頂き、支部活動に対しての忌憚のないご意見をお聞かせ下さいませようこの場をお借りしてお願い申し上げます。

関東支部設立から15年、この間、我が国は甚大なる自然災害に幾度となく見舞われました。関東支部エリア内も例外なく多くの被害を受けてまいりましたが、更に大きな災害に見舞われる可能性も指摘されています。若い支部ではありますが、日本の中心にあつて地盤工学会会員の約半数が所属する関東支部です。災害時の調査体制や協定、本部や各支部のみならず他学会との協力体制など、より一層強固なものにする必要が急務であると感じています。本件は、幹事長の任期中の一つの課題として取り組む所存です。

最後に、繰り返しになりますが微力ながら支部発展のために精進致しますので、皆様のお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

「中山間地域における広域的な豪雨による土砂災害メカニズムの究明と地域防災力の向上に向けた取り組みに関する研究討論会」開催報告

共催：公益社団法人土木学会 地盤工学委員会

公益社団法人地盤工学会 関東支部

自然災害に対する安全性指標（GNS）の開発とその利活用に関する研究委員会

委員長 伊藤和也（東京都市大学）

令和元年7月2日（火）13:00～16:50、地盤工学会館地下会議室において「中山間地域における広域的な豪雨による土砂災害メカニズムの究明と地域防災力の向上に向けた取り組みに関する研究討論会」が、土木学会 地盤工学委員会（斜面工学小委員会（委員長：鈴木素之））と地盤工学会関東支部 自然災害に対する安全性指標（GNS）の開発とその利活用に関する研究委員会（委員長：伊藤和也）との共催で開催されました。土木学会、地盤工学会関東支部によるメーリングリストや会告等による広報を通して、70名超の方々にご参加頂きました（写真1、2）。

土木学会地盤工学委員会では、平成30年度土木学会重点研究課題「中山間地域における広域的な豪雨による土砂災害メカニズムの究明と地域防災力の向上に向けた取り組みに関する研究」に取り組み、近年の豪雨災害に対する課題の抽出や将来にむけた提言を取りまとめました。これらの成果とGNS委員会の研究活動成果を広く共有し、豪雨防災に資するよう多角的な議論を行うことを目的として開催されました。講演内容は、下記のとおりです。

講演 1	最近の広域的な豪雨に関する状況の抽出	原 重守（古川コンサルタント）
講演 2	広域的かつ同時多発的な土砂災害事例の選定と技術的検討	北爪貴史（東電設計）
講演 3	中山間地域で問題となる地形・地質の特徴	片山直樹（日本海技術コンサルタント）
講演 4	中山間地域の土砂災害発生の傾向と対応策の検討	美馬健二（太田ジオリサーチ）
講演 5	土砂や流木の河道への流入による洪水氾濫の発生の検討	竹林洋史（京都大学防災研究所）
講演 6	地域住民の避難行動の状況及び現状の地域防災力の状況	畑山満則（京都大学防災研究所） 稲垣秀輝（環境地質）
講演 7	自然災害に対する安全性指標 GNS	伊藤和也（東京都市大学）

なお、土木学会平成30年度重点研究課題は下記 URL から報告書が入手可能です。

http://committees.jsce.or.jp/s_research/taxonomy/term/6

最後に、本研究討論会の会場設営・運営には、土木学会 地盤工学委員会の皆様ならびに地盤工学会関東支部事務局に多大なご助力を頂きました。末筆ながら厚く御礼を申し上げます。



写真-1 会場の様子



写真-2 討論の様子

「浅間山火山噴火緊急減災対策現地見学会」開催報告

関東支部 群馬県グループ
幹事 蔡 飛（群馬大学）

浅間山は、群馬・長野県境に位置する活火山で、山麓は避暑地として古くから開発が進められ、別荘やリゾート施設が分布しています。また、周辺には国道、鉄道（新幹線・在来線）、高速道路などの主要交通網が整備されています。浅間山は有史以来数多くの噴火が記録されており、天明3年（1783年）の大噴火では、火砕流に伴い発生した泥流により山麓のみならず利根川流域に大きな被害をもたらしました。浅間山が噴火した場合、群馬・長野両県のみならず首都圏の経済活動にも甚大な影響を与える恐れがあります。国土交通省では、浅間山の噴火に伴い発生が想定される積雪期の火砕流による融雪型火山泥流や噴火後の土石流に対し下流の被害を軽減するために、砂防堰堤、導流堤、監視・観測機器などを設置しています。また、緊急時に施工する砂防堰堤に使用するコンクリートブロックも多数備蓄されています。

群馬県グループでは、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所のご厚意で、令和元年9月12日（木）午後に、コンクリートブロックが備蓄されている砂塚ストックヤードや施工中の片蓋川第二砂防堰堤等を見学する機会を頂きました。参加者は、県外からも含め15名でした。見学会には利根川水系砂防事務所の方よりコンクリートブロックを備蓄している砂塚ストックヤードでの備蓄状況や緊急時のコンクリートブロックによる砂防堰堤の施工方法などが説明されました。また、片蓋川第二砂防堰堤では、現地発生材を有効活用する砂防ソイルセメントの施工状況やそのトータルコストの縮減が可能ななどのメリットが説明されました。また、火山噴火時に火砕流や土石流の発生が予想される地域でも応急対策工事での作業員安全確保のため、遠隔操縦式建設機械を用いた無人化施工の操作訓練が実施されており、併せて見学しました。

この度の見学会を通じて、防災対策は普段からの備えの重要性を再認識する良い機会になりました。



写真-1 砂塚ストックヤードを見学する様子



写真-2 片蓋川第二砂防堰堤概要説明の様子

第16回 関東支部発表会（GeoKanto2019）の開催報告

関東支部 支部発表会グループ
リーダー幹事 長尾俊昌（大成建設(株)）

令和になってはじめての支部発表会となる第16回関東支部発表会（GeoKanto2019）が、令和元年10月31日（木）に、東京都渋谷区の「国立オリンピック記念青少年総合センター」にて開催されました。青少年総合センター4階と5階に5つの会場を設け、一般発表103編と研究委員会の活動報告が行われました。204名の一般参加を得て、例年通りの優れた発表と活発な議論が行われました。研究委員会の活動報告では関東支部所属の7つの委員会から活動報告がありましたが、歴史遺産の地盤工学研究に関する研究委員会からは、未曾有の水害をもたらした台風19号によって、予定したシンポジウムが中止になった顛末とそれに基づくリスク管理の重要性が報告されました。

新たな取り組みとして昨年度から始めた技術紹介（スポンサーとなって頂いた企業もしくは団体から技術紹介をして頂く）の場を本年度も設けました。午後の一般発表のセッションにおいて、一般発表に先立って行われた技術紹介は、発表時間を昨年度よりも延長したこともあり、各会場において昨年以上に熱心な技術の紹介をして頂きました。技術紹介をはじめとするスポンサー応募には述べ25件の申し込みがあり、発表会の運営に多大なご協力を頂くことができました。スポンサーに応募して頂いた企業・団体の方々には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

発表会終了後には、会場と同じ敷地内にある「レストランとき」にて意見交換会を開催しました。89名の参加者があり、意見交換会にご参加頂いたスポンサーの方々によるショートスピーチもあり、活発な議論や交流の場となりました。

最後になりますが、発表会の準備・実施にあたり、安田支部長をはじめとする多くの関東支部の方々にご指導とご支援を頂きました。特に支部発表会の委員の皆様には献身的な働きをして頂きました。ここに感謝の意を表したいと思います。

Geokanto2020は国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催致します。会員の皆様の積極的なご参加と企業・団体の方々のスポンサーへのご応募をお待ちしております。



写真-1 一般発表の様子



写真-2 意見交換会の様子

表1 これまでの関東支部発表会の開催概要

回数	年度	開催場所	参加者数	論文数
第1回	2004	東京都文京区 (JGS 会館)	53	26
第2回	2005	茨城県水戸市 (茨城大学)	86	52
第3回	2006	神奈川県横浜市 (関東学院大学)	205	111
第4回	2007	群馬県前橋市 (県市町村会館)	187	126
第5回	2008	千葉県船橋市 (日本大学)	174	117
第6回	2009	栃木県宇都宮市 (県総合文化センター)	232	147
第7回	2010	埼玉県さいたま市 (大宮ソニックビル)	194	131
第8回	2011	山梨県甲府市 (びゅあ総合)	184	132
第9回	2012	東京都江東区 (日本科学未来館)	402	197
第10回	2013	東京都江東区 (日本科学未来館, 東京国際交流館)	約 310	186
第11回	2014	東京都江東区 (日本科学未来館, 東京国際交流館)	約 300	170
第12回	2015	東京都江東区 (日本科学未来館)	約 300	163
第13回	2016	東京都江東区 (日本科学未来館)	約 300	142
第14回	2017	栃木県宇都宮市 (栃木県総合文化センター)	329	145
第15回	2018	東京都渋谷区 (国立オリンピック記念青少年総合センター)	約 230	125
第16回	2019	東京都渋谷区 (国立オリンピック記念青少年総合センター)	204	103

表2 実行委員会委員

副支部長兼 グループリーダー	長尾俊昌 (大成建設)		
学術部会	リーダー: 重村智 (日大)	日下部真佑 (不同テトラ)	堀越一輝 (東工大)
	富安祐貴 (大林組)	原弘典 (中央開発)	
総務部会	リーダー: 鎌尾彰司 (日本大学)	植村一瑛 (応用地質)	美野輪皇士 (小野田ケミコ)
	山地伸弥 (鹿島建設)	栗本悠平 (清水建設)	新屋麻美 (アサノ大成基礎 ENG)
	青木美智子 (地盤工学会)		
県連絡委員	松島亘志 (筑波大)	後藤聡 (山梨大)	早野公敏 (横浜国大)
	清木隆文 (宇都宮大)	斎藤健志 (埼玉大)	山中光一 (日本大)
	蔡 飛 (群馬大)		

第16回 地盤工学会関東支部発表会 優秀発表者賞

セッション名	発表者 (所属)	論文題目
	受賞コメント	
防災1	遠藤 彩佳 (首都大学東京)	「等価骨格間隙比と相対密度を用いた細粒分混じり砂の定常状態評価」
<p>この度は、第16回地盤工学会関東支部発表会において優秀発表者賞を賜り、誠にありがとうございます。本研究では、等価骨格間隙比と相対密度を用いて細粒分混じり砂の定常状態評価を検討いたしました。今回の受賞ならびに発表会で頂いた貴重なご意見を励みに、今後も研究に勤しんでいきたいと考えております。ご指導頂いた吉嶺充俊先生をはじめとする研究室の方々にはとても感謝しております。この場を借りて心より御礼申し上げます。</p>		
防災2	王 サイ (東京理科大学大学院)	「細粒分を多く含む砂質地盤の室内三次元浸透固化実験」
<p>この度は、第16回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出いただき誠にありがとうございます。本研究を発表するにあたり、指導教員である塚本良道先生をはじめ、関係者の皆様には、数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。</p>		
防災3	檀上 徹 (防災科学技術)	「山砂を用いた室内散水実験に基づく斜面勾配と浸透能との関係」

	研究所)	
<p>この度は、第16回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出いただき誠にありがとうございます。斜面表層部における浸透能と斜面勾配に関する基礎実験について報告させていただきました。今後とも、浸透能に影響を与えるパラメータを変えた基礎実験を積み重ね、浸透能の定量化に向けた研究を進めていきたいと思っております。</p> <p>最後に、発表にあたり関係者の皆様には貴重なご意見やご助言を賜り、心より感謝申し上げます。</p>		
防災4	新名 航 (東京大学大学院)	「洗掘を受ける橋脚基礎の崩壊過程に及ぼす河床材料の影響」
<p>この度は優秀発表者賞にご選出いただき、光栄に思います。</p> <p>本研究は河川橋脚基礎の洗掘に関して、地盤工学的な観点から取り組んだものです。今後は実スケールに近い条件での模型実験を行いつつ、地盤材料の変化が洗掘現象にどう影響していくのかを引き続き研究したいと考えています。</p> <p>末筆になりますが、本研究を立ち上げからご指導いただいた渡邊健治先生をはじめ、模型実験の実施に際してご協力をいただいた鉄道総研の方々には心より御礼申し上げます。</p>		
防災5	坂本 香菜子 (群馬大学)	「模擬根系の挿入角が与える斜面崩壊抑止効果への影響」
<p>この度は、第16回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出いただき、大変光栄に存じます。</p> <p>本研究では、樹木の持つ杭効果に着目し根系の侵入角が降雨時の斜面崩壊へ与える影響について検討を行いました。今回の発表の場で頂戴した貴重な意見を励みに、さらに実験に取り組んで参ります。最後に、指導教員である若井明彦教授、共著者の後藤聡先生をはじめとする関係者の皆様には心より感謝申し上げます。</p>		
防災6	野村 勇斗 (東京電機大学大学院)	「阿蘇谷の湖成粘性土層のせん断波速度構造による下端面の推定」
<p>この度は第16回関東支部発表会において優秀発表者賞に選出して頂き、大変光栄に思います。本発表では阿蘇カルデラで微動アレイ観測を実施し、湖成粘性土層のせん断波速度構造による下端面の推定を試みたものです。この研究を行うにあたり、観測データを提供して頂いた防災科学技術研究所の皆様および石川敬祐准教授をはじめとする関係者の皆様からのご指導ご鞭撻を賜りましたこと、心から厚く感謝申し上げます。</p>		
材料1	鹿又 善憲 (首都大学東京)	「単純せん断と三軸圧縮せん断における砂の定常状態の比較」
<p>この度は、このような名誉ある賞にご選出いただきまして、誠にありがとうございます。本研究は、単純せん断状態および三軸圧縮状態における砂の定常状態線がどの程度異なるかについて比較・検討したものにになります。今回の賞を励みに、今後も実験に取り組みたいと思っております。</p> <p>最後に、ご指導いただきました吉嶺先生をはじめ、研究室、関係者の皆様はこの場をお借りして、心より感謝申し上げます。</p>		
材料3	押野 滉大 (東京理科大学大学院)	「転炉系製鋼スラグと高炉スラグ微粉末を混合した木くずの力学特性に与える高炉スラグ微粉末量の影響」
<p>この度は、第16回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出いただき誠にありがとうございます。本発表では、転炉系製鋼スラグと高炉スラグ微粉末を混合した木くずの力学特性に与える高炉スラグ微粉末量の影響についての検討結果を報告させていただきました。</p> <p>本研究を発表するにあたり、指導教員である菊池喜昭教授をはじめ関係者の皆様には数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。</p>		
構造1	井原 壮 (東京理科大学大学院)	「砂礫の締固め特性と強度特性に及ぼす礫含有の影響の実験的検討」
<p>この度は、第16回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者賞にご選出いただき誠にありがとうございます。本発表では、礫質土の締固め及び強度特性について報告させていただきました。</p> <p>本研究を発表するにあたり、指導教員である菊池喜昭教授をはじめ関係者の皆様には数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。</p>		
構造2	毛利 惇士 (東京理科大学)	「杭の水平載荷実験における土槽壁面摩擦力が杭の挙動に与える

	学大学院)	影響」
<p>東京理科大学大学院の毛利惇士です。優秀発表者賞に選んでいただきありがとうございます。今回は、土槽壁面摩擦力が杭の水平挙動に及ぼす影響について整理した内容で発表させていただきました。発表セッションや意見交換会では貴重なアドバイスをいただくことができました。ありがとうございます。</p>		
環境 2	山本 有雅 (早稲田大学)	「自己シール性評価に向けたベントナイトの膨潤変形に伴う乾燥密度の変化の考察」
<p>この度は、第 16 回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出いただき誠にありがとうございます。</p> <p>本研究では自己シール性について定量評価する方法・実験装置の提案を目指しています。本発表では、膨潤変形試験から推察した膨潤変形によるベントナイト供試体内部状態の時間変化について発表させていただきました。</p> <p>本研究を発表するにあたり、関係者の皆様にはご指導ご鞭撻を賜りましたこと厚く御礼申し上げます。</p>		
その他	近藤 誠 (早稲田大学)	「i-Construction 推進に向けた砂・Ca 型ベントナイト混合土を対象とした明度による締固め状況の確認の一考察」
<p>この度は、第 16 回地盤工学会関東支部発表会 GeoKanto2019 におきまして、優秀発表者にご選出いただき、ありがとうございます。</p> <p>本研究は写真による締固め管理のシステム構築を目的としており、発表では、締固めた砂・Ca 型ベントナイト混合土の供試体の明度の測定結果を報告させていただきました。</p> <p>最後になりますが、本研究を発表するにあたり、関係者の皆様には数々のご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。</p>		

第17回地盤工学会関東支部発表会 (GeoKanto2020) のご案内

Geokanto2020 実行委員会

公益社団法人地盤工学会関東支部では、社会へのより一層の貢献を目指し、一般からの参加を促すプランを加えた形式の関東支部発表会を開催しております。昨年に引き続き国立オリンピック記念青少年総合センターで開催予定です。

GeoKanto2020の詳細についてはまだ未確定ではありますが、開催日、開催場所については下記の通り既に決まっております。一般発表のほかに、関東支部の研究委員会報告、ディスカッションセッションなどを企画しております。また、交流の場として意見交換会も開催致します。意見交換会だけのご参加も大歓迎です。GeoKanto2020がより活発な議論や交流の場となりますよう、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

【開催期日】 2020年11月27日（金）9:00-17:00（予定）

【開催場所】 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

アクセス <https://nyc.niye.go.jp/category/access/>

【発表申込の方法と重要期日】

■発表申込料：正会員：8,000円 / 学生会員：4,000円 / 非会員：9,000円（予定）

なお、発表申し込みには講演集の代金が含まれます。

発表を行って頂くには発表申込みと論文投稿が必要です。

■発表申し込み及び論文投稿期間：2020年9月中旬から10月上旬（予定）

「発表申し込み」と「論文投稿」が同時となります。

■聴講参加費：3,000円（予定） ※当日、受付にて現金支払い

■G-CPDポイント：論文発表者10.0 論文連名者5.0 参加者6.0

■講演集：専用URLからダウンロード（アドレス・公表日は後日お知らせ致します）

【意見交換会】 2020年11月27日（金）17:30-19:30

■場 所：同センター内 カルチャー棟 「レストラン とき」（予定）

■参加費：事前申し込み 正会員/非会員：4,000円 / 学生会員：3,000円（予定）

当日申込み 一律5,000円（予定）

*前回と同様にスポンサーを募集予定ですが詳細は後日お知らせ致します。

公益社団法人地盤工学会関東支部 第 14 回ソイルストラクチャーコンテスト開催報告

地盤工学会関東支部 会員サービスグループ
学生幹事 山崎 誓也（東京都市大学）
小林 綾乃（関東学院大学）
松田 幸弘（関東学院大学）
奥倉 大樹（東京電機大学）

令和元年 11 月 9 日（土）に日本大学理工学部船橋キャンパスにおいて「第 14 回ソイルストラクチャーコンテスト」を開催いたしました。運営の立場で参加した会員サービスグループの学生幹事が開催報告をいたします。

～防げ！倒壊。完璧な擁壁を造るのは誰だ！～

昨年までのテーマであったソイルブリッジに変わり、今大会から擁壁を題材としたコンテストが行われ、9 チーム（学生 7 チーム，社会人 2 チーム）の方々にご参加いただきました。

本コンテストは、3 枚のパネルを擁壁に見立て、背面地盤に設置する補強材に工夫を凝らして、いかに改良率を低く抑え荷重に対して強い擁壁を造ることができるかを競いました。補強材は、100 円ショップで購入した材料を 3 個まで用いることができ、補強材の選択と設置方法が今大会のカギとなりました。また本大会は、①ソイルブリッジ値【改良率】（補強材の体積/投入した地盤材料^{1.5}）②耐荷重（どれだけの荷重に耐久できる擁壁か）、③設計のアイデアを含むプレゼンテーションの評価、の 3 部門の審査項目から最終的な順位を決定しました。

模型地盤への荷重は 1 回ということもあり、各チームとも慎重に補強材の作製、設置を行っていました。参加したチームの中でも、各部門で得点を稼ぎ、プレゼンテーション部門では 1 位を獲得した関東学院大学 A チームが、見事総合優勝に輝きました。

最後に

コンテストに参加してくださった、基礎地盤コンサルタンツ(株)、(株)不動テトラ、(株)アースプライム、東京電機大学、東京都市大学、日本大学、山梨大学、早野研究室、関東学院大学の皆様にこの場をお借りして感謝を申し上げます。来年度もソイルストラクチャーコンテストを開催する予定となっております。また多くの方々との幅広い交流を深め大いに盛り上がりしたいと思います。皆さまのご参加お待ちしております。



写真 - 1 荷重の様子



写真 - 2 総合優勝 関東学院大学 A チーム

令和元年度神奈川県地盤工学セミナー 開催報告

関東支部 神奈川県グループ
幹事 山口 恵美（関東学院大学）

2019年11月16日に、神奈川県地盤工学セミナーを開催しました。今年も昨年に引き続き、大学生を対象とした「建設プロジェクトを学ぶ会」を開催しました。協会、官庁、コンサルタント、建設会社の土木技術者を発表者に選定し、携わっているプロジェクトの建設技術・実務をそれぞれの立場からご紹介頂きました。当日は40人の学生が参加し、各プロジェクトの内容や土木技術者としての仕事・役割を熱心に聞いている様子が伺えました。質疑応答では、参加者は予めランダムに決められたグループ毎に各発表者のテーブルに移動し、15分間話した後に他のテーブルに移動する形式をとりました。学生たちは様々な人と直接話すことで、非常に有意義な時間となったのではないのでしょうか。神奈川県グループでは今後も学生や若手が参加しやすい行事等を実施し、活動の活発化に努めたいと思っています。

開催日時： 11月16日（土） 13:00～17:00

参加人数： 40人

はじめに		
セミナーの趣旨説明	早野 公敏	JGS 関東支部 神奈川県グループ
協会		
宅地地盤と地盤品質判定士	小倉 章	地盤品質判定士会 神奈川支部
官庁		
横浜市土木職の業務について	小野澤 賢二	横浜市道路局 横浜環状道路調整課
箱根火山の活動について	瀧沢 倫明	神奈川県 温泉地学研究所
事例紹介 神奈川県の河川事業 ～矢上川地下調節池事業～	入山 浩壱	神奈川県 横浜川崎治水事務所 川崎治水センター
コンサルタント		
東京湾岸地域における最近の土質調査事例	橋本 和佳	中央開発株式会社
建設会社		
建設会社における技術研究所の役割と取組み	石井 裕泰	大成建設株式会社
海洋工事に用いる作業船についての紹介	宮本 憲都	東亜建設工業株式会社



写真-1 発表の様子



写真-2 質疑応答の様子

～昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～ 「ジオテク語りべ会」 開催報告

関東支部 会員サービスグループ
 幹事 山口 恵美
 幹事 石井 亜希子
 学生幹事 小林 綾乃

2019年11月27日に地盤工学会地下大会議室にて、～昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～「ジオテク語りべ会」が開催されました。この企画は、会員交流の一環として催したもので、今回が第1回目です。記念すべき第1回目は講師に石原研而先生をお迎えして、「地盤の液状化」についてご講演いただきました。

当日は81人の方に参加していただき、地下の大会議室は希に見る満席状態となりました。

はじめに、この企画の立案者でもあり、石原先生のお弟子さんでもある安田支部長より挨拶があり、現地調査に行くといつの間にか石原先生がいなくなり、探す和高台などでスケッチをされるのが毎度のことというお話しから会がはじまりました。

石原先生の講演は、戦後から現在に至るまでの代表的な地震と被害を年表でまとめられ、その年表に沿って液状化に関する研究の変遷をお話しいただきました。そのお話しの中には研究に携わってきた人たちとの思い出やエピソードの他、日本とアメリカでの研究の攻防戦についても語っており、改めて現代の日本における液状化研究の体系を知ることが出来るような内容でした。また、液状化対策や地盤調査法など、様々な地盤工学の発展に関わる内容もお話しいただき、約2時間の講演時間もあっという間で時間が足りないくらいの内容が詰め込まれていました。なお、石原先生はこの公演中はずっと立ってお話しされており、80歳を超えているとは思えない体力とバイタリティーには多くの方が感心したことと思います。

講演終了後は40分という短時間ではありましたが、お菓子とソフトドリンクを頂きながら石原先生を囲んでざっくばらんにお話しをする時間を設けました。車座になって端から自己紹介と合わせて石原先生と会話をしいきました。参加された方は石原先生と古くからの知り合いの方もいれば、初めてお話しするためか緊張している様子の方もいましたが、終始和やかな雰囲気でおこなわれました。

このジオテク語りべ会は、シリーズとして今後も開催予定です。多くの皆様にご参加いただき、世代を超えた会員同士の交流の場となることを願い、これからも企画していきたいと思っております。



写真-1 石原先生ご講演の様子



写真-2 講演後に行われた石原先生を囲む会

栃木県グループ勉強会「地盤品質判定士による宅地診断のポイント」

関東支部 栃木県グループ
幹事 清木隆文（宇都宮大学）

1. はじめに

栃木県グループでは、地盤品質判定士による宅地診断のポイントを学ぶ勉強会を「とちぎ男女共同参画センター・パーティ」の研修室で3名の講師をお招きして開催しました。この勉強会は、(一社)栃木県地質調査業協会から共催を、(一社)栃木県建築士会、(一社)栃木県建築士事務所協会、(一社)栃木県建築構造設計事務所協会に後援をして頂き開催しました。参加者は17名でした。

2. 話題提供内容

1) 地盤品質判定士に関する紹介 小田部 雄二氏（地盤品質判定士協議会事務局長、(株)アサノ大成基礎エンジニアリング）

地盤品質判定士の資格を設置する発端となりました2011年東北地方太平洋沖地震から現在に至るまでの設立の流れ、地盤品質判定士協議会の仕組みと最近の試みをご紹介いただきました(写真-1)。最近国土交通省と連携し、地盤品質判定士の資格を総合評価の加点対象に取り入れる動きなど、地盤品質判定士の資格を広く活用する仕組みづくりが進歩しつづけている状況が理解できました。

2) 宅地地盤の品質判定の考え方について 岸田 隆夫氏（同協議会幹事、元広島工業大学教授）

兵庫県南部地震、2011年東北地方太平洋沖地震などの地震や本年襲来した台風15号、19号、21号に伴う地盤災害について、ご講演をいただきました。戦後から現在に至るまで、地震を主とする自然災害が多く発生し、その被災規模も大きくなっている様子が説明されました。栃木県は、全国的にも災害が少ない県とされていますが、特に台風19号に伴う災害では、かなり酷かったことが再認識されました。今年(2019年)に限らず今後ともこの様な自然災害に伴う宅地地盤災害発生の可能性が伺われました。

3) 宅地地盤の被害および被害事例 大久保 拓郎氏（同協議会幹事、(株)環境地質サービス代表）

地盤品質判定士として、行政と協働で実際に宅地の諸問題に対応された3つの事例を説明していただきました。宅地の問題は、地盤に関わる技術的な問題に限らず、隣人との関係や、法律の限界など、教科書通りの対応では行かないことに驚きました。

3. おわりに

この度の勉強会では、地盤品質判定士の資格を活用する試み、また設置された背景と近年の地盤災害、また実際に宅地を判定する際の広い知見が必要であることなど、改めて地盤の品質を判定するための重要さと大変さを話題提供、質疑を通して学ぶ良い機会となりました(写真-2)。この勉強会の後、場所をホテルニューイタヤに移して3名の講師の先生を囲んだ意見交換会を行い、地盤品質談義に花を咲かせました。



写真-1 講師による講演風景



写真-2 質疑応答の様子

宇都宮市 LRT(仮称) 鬼怒川橋梁下部工(ニューマチックケーソン)現場見学会

関東支部 栃木県グループ

幹事・宮崎基浩 (芙蓉地質(株))

栃木県宇都宮市は、新設では我が国初めての試みとなる LRT(Light Rail Transit、次世代型路面電車システム)を 2022 年開業に向けて、現在、整備事業が進められています。軌道新設工事において、利根川支流鬼怒川横断部橋梁の下部工には、ニューマチックケーソン工法が採用されており、栃木県グループでは、2019 年 12 月 24 日の午後、この工事を宇都宮市建設部 LRT 整備課のご厚意により見学させて頂きました。県内外から官庁・設計・調査・施工・大学と多岐にわたる分野から 19 名の参加がありました。

最初に現場事務所にて宇都宮市建設部 LRT 整備課吉本係長よりご挨拶、事業概要の説明をいただいたあと、同課の清水技師、平野技師より、3 湯水期(第 1 期 2018.11~20.19.5、第 2 期 2019.11~2020.5、第 3 期 2020.11~2021.5)に渡る施工ステップ、ニューマチックケーソンの施工手順など工事概要について詳細なご説明頂きました(写真-1)。

次に施工現場に移動し、過年度下部工完了している橋脚については上部工施工状況(写真-2)、本年度下部工施工橋脚については、遠隔操作室において実際の掘削面の映像や施工状況の動画など(写真-3)、施工箇所では施工状況や掘削土の土質・地層等を説明頂きました(写真-4)。

栃木県内ではニューマチックケーソン工法の採用が多くないことから、参加者から終始活発な質問がありました。発注者・施工者より丁寧な説明をいただき有意義な見学会となりました。

ご案内頂いた宇都宮市建設部 LRT 整備課、オリエンタル白石・中村・野澤・小平 JV の各担当者様においては年末の多忙期にもかかわらずご対応いただき深く感謝申し上げます。



写真-1 事業概要説明



写真-2 上部工見学の様子



写真-3 遠隔操作室の様子



写真-4 下部工見学の様子

JGS70 周年記念行事 地盤の魅力を探せ！インスタフォトコンテスト 入賞作品

地盤工学会 70 周年記念行事「地盤の魅力を探せ！インスタフォトコンテスト」に、たいへん多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

このたび審査員による厳正な審査の結果、各賞の受賞作品が決定いたしました。

審査結果をここに発表いたします！

<最優秀賞>



鈴木 亮彦 様

投稿いただいた多くの写真の中でも、審査委員から多くの投票がありました！

<支部長賞>



大谷 友香 様

支部長コメント：地盤工学会らしい、土に愛着を感じ、しかもエレガントな作品です。潮の香が漂ってきます。

<会員サービスグループ賞>



田中 政江 様



下鳥 亨 様

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
2019.07.02	共催行事「中山間地域における広域的な豪雨による土砂災害メカニズムの究明と地域防災力の向上に向けた取り組みに関する研究討論会」	JGS 会館
2019.07.12	栃木県グループ「栃木県総合スポーツゾーン建設現場見学会」	栃木県総合スポーツゾーン新スタジアム建設現場
2019.07.25	会員サービスグループ「2019 年度ジオセミナー～人工誘発地震 Induced earthquakes～」	JGS 会館
2019.08.03	後援行事「夏休み親子現場見学会（土木学会 地下空間研究委員会）」	東京駅北通路周辺整備工事
2019.08.06	群馬県グループ「叶山石灰石採掘現場見学会」	叶山鉱山
2019.09.12	群馬県グループ「浅間山火山噴火緊急減災対策現地見学会」	浅間山
2019.10.04	2019 年度第 1 回商議員会・特別講演会「高速道路における土工技術の変遷」	JGS 会館
2019.10.31	第 16 回地盤工学会関東支部発表会（GeoKanto2019）	国立刈苅ノック記念青少年総合センター
2019.11.09	共催行事 令和元年度”彩の国”市民科学フォーラム「「情報」で人の命を守る～防災・減災対策の未来のかたち～」	ラフレ埼玉
2019.11.09	会員サービスグループ 地盤工学会創立 70 周年記念行事「第 14 回ソイルストラクチャーコンテスト」	日本大学理工学部船橋キャンパス
2019.11.16	神奈川県グループ「令和元年度地盤工学セミナー」	関東学院大学関内キャンパス
2019.11.18	後援行事 令和元年度「アワード工法」技術講習会	日本青年館ホテル
2019.11.20	「令和元年台風 19 号による関東地方の地盤被害調査報告会」	JGS 会館
2019.11.25	後援行事 土工構造物の防災を考える技術セミナー	KFC Hall & Rooms Room115
2019.11.27	会員サービスグループ ～2019 年度 昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～「ジオテク語りべ会」	JGS 会館
2019.12.04	栃木県グループ勉強会「地盤品質判定士による宅地診断のポイント」	パルティとちぎ男女共同参画センター
2019.12.24	栃木県グループ「宇都宮市 LRT (仮称) 鬼怒川橋梁下部工 (ニューマチックケーソン) 現場見学会」	LRT (仮称) 鬼怒川橋梁工事現場
2019.10.9 ~ 2020.01.17	会員サービスグループ・企画総務グループ 70 周年記念事業「地盤の魅力を探せ！ インスタフォトコンテスト」	
2020.01.29	共催行事 令和元年度「技術講演会」	さいたま市文化センター
2020.02.05	後援行事「環境防災セミナー2020-台風による土砂災害とスマートシティについて-」	ホテルグランドヒル市ヶ谷別館

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧下さい。

【行事予定】

日 時	行事名称	場 所
2020.11.27	第 17 回地盤工学会関東支部発表会 (GeoKanto2020)	国立リハビリテーション 青少年総合センター

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、E-mail : kantouevent@jiban.or.jp または FAX : 03-3946-8699 までお申し込み下さい。

(渡邊 諭 : 企画総務グループ 幹事)

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部

〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

<http://jibankantou.jp/>